

# 文芸研ニュース

2025年12月25日  
—NO. 171—

発行 文芸教育研究協議会  
編集 文芸研事務局



千葉大会、お疲れ様でした！  
来年の夏は、大阪枚方にお越しやす。

巻頭 辻委員長より	1
千葉大会を終えて	2
千葉大会参加者（山中ゼミ）より	4
千葉大会の思い出（写真集）	6
事務局長になって	7
サークル近況報告（広島サークル）	8
大阪大会に向けて（枚方の取り組み）	11
事務局通信	13
事務局員の妄想日記	14

## 千葉大会から大阪大会へ

委員長 辻恵子

◆第59回文芸教育全国研究大会千葉大会は、2025年8月2日・3日に開催され169名の参加（延べ338名）がありました。その内訳は、現地参加が132名（全体の78%）、オンライン参加が37名（22%）でした。今回も大会テーマは「ものの見方・考え方」を育てる国語教育―真に深い学びを求めて―です。

◆まず今回の公開授業は、小学校6年「やまなし」。授業者は明星学園の淘江正仁さん（東京文芸研）でした。これまで公開授業では全体像を見渡すことができ、文芸研の授業のあり方が分かりやすい「詩」教材が選ばれてきました。それに対して今回は、文芸教材の授業の一部分を取り上げるという新たな試みでした。実際の授業では、西郷文芸学に基づく深い教材研究と豊かな学級づくりが垣間見られ、そこまでの積み重ねがあつてこそその本時の授業だとおおいに納得がきました。皆様はいかがだったでしょうか。

◆文化行事では美炎さんに馬頭琴の演奏をお願いしました。「すばらしい演奏で、もっと聴きたかった」と大好評でした。豊かなひと時を持つことができ、会に彩を添えていただきました。

◆実践報告は千葉文芸研の秋山亮介さん。『目の前の子ども達の現実から始めよう』というタイトル通り、子ども達の日常と平和学習などが生き生きと語られました。困難な社会・学校の状況下であっても、文芸研だけでなく他の民間団体や組合活動の中でこつこつとしなやかな実践を重ねている秋山さんらしい報告でした。（この大会を支えてくれた全教千葉の組合員の皆さんにも響いたのではないかと思います。）

◆記念講演は荻上チキ氏の「なぜあなたの教室ではないじめが減らないのか」でした。今日的なテーマで、低学年から中学いや大人の世界まではびこるいじめの問題について、実証的かつわかりやすく語っていたいただきました。大いに参考になったのではないかと思います。

◆二日目の分科会についての振り返りは研究部に譲りますが、領域別分科会・学年別分科会のそれぞれで、充実した学習が成立したことが何より嬉しかったです。私たちにとってこの分科会提案と討議は、二度の実践研を経て一年間かけて準備した学習の集大成です。皆さん、本当にお疲れ様でした。

◆運営面での成果と課題についてもすでに検討が終わっていますので省略しますが、秋山委員長を中心に多くの先輩方や組合員、また他サークルの皆さんのご助力をいただいて開催できました。厚く御礼申し上げます。そして天候が危ぶまれる中おいでくださった皆様、オンラインで加わってくださった皆様、本当にあ

りがとうございました。

◆来年夏は、大阪大会です。すでに枚方サークル中心に、オンラインセミナーを始めたり、協力メンバーを募ったり、意欲的な取り組みは魅力満点です。私たちも、大会につながるような日常の活動を一步一步進めていきましょう！

## 初めての千葉大会、

ありがとうございました。

千葉文芸研松戸サークル 秋山亮介

この夏、千葉大会に参加してくださったみなさん、準備に携わってくださったみなさん、ありがとうございます。初めてのづくしの千葉大会、わたしは不安でいっぱいでした。人が集まるのか、役割を担えるのかなど、そして、（自分で決めたことですが）まさかの実践報告もと、と不安だらけでした。関東のみなさんは、本当に優秀な方々です。お仕事を頼めばやつてもらえるということ、そこは安心していました。

今回、組合の仲間の力をだいぶ借りました。「千葉で初めての文芸研の全国大会があるから、その準備で組合の仕事はあまりできなくなるかも。」と話すと、「組合でバックアップしますから、学びながらコラボしていきましょう。」という話になりました。そうい

ってもらえて、ワクワクしたのを覚えています。組合の学習会に、昨年は上西先生、今年度は辻先生や曽根先生、秋山が講師としてコラボ学習会を行いました。6月の船橋での学習会では、曽根先生の「モチモチの木」と辻先生の「きつねの窓」の教材分析を2・5時間で学ぶ超充実した圧縮学習会で、全国の皆さんにも参加してもらいたいほどでした。プレとして行ったこれらのコラボ学習会があったからこそ、千葉の先生方が文芸研の良さを知って参加してくださったし、組合の先生方もここに力をかける価値のあるものと思ってもえたと感じています。

全国大会とは別に、松戸サークルとしては厳しい現実もありました。それでも、仲間がいてくれることと、ありがたさを逆に実感できたと思っています。沼澤さんが文芸研で共に歩んでくれるということ、学び励まし合うことのできる人がいることがありがたいです。今回、千葉県教育委員会と、近隣市6市の教育委員会後援を得るために曽根先生が奔走してくださいました。実務的なこと言えば、後援をとった市の全小中学校、ほぼ全職員にチラシが無償で配布できることも大きいと思います。それと、個人的には私に「全国大会があるんですよ。」と出張の際に声をかけてくれて、そこから大会に誘うことができるということもありました。

今回の文芸研大会のアンケートを見ると、「参加してよかった」「提案を聞いて、子どもたちの姿が目

浮かんだ」「教材分析が深く、実践が『作者の意図を超えた意味づけ』になっていったと思った」など、良質なレポートを提案してくださったレポーターのみなさんのおかげで充実の学習会になりました。千葉の地でそのことが広がっていくことを期待したいと思います。初参加者も一定数おりましたので、その方々が文芸研の良さを実感し、また学習会に足を運んでくれるよう働きかけていきましょう。学習は継続していきます。全国大会が終わった今（8月）、ここからスタートして、千葉でも定期的な学習会を開いていきます。千葉も他県を見習って、「千葉県集会」の実現に向けて頑張りたいと思います。

来年は、大阪大会。もう動き出していることにワクワクしつつ、来年も家族みんなで参加します。



# 千葉大会に参加して

## 国語科の本質

大野義（山中吾郎ゼミ）

私が学んだことは国語という教科の本質です。なぜ子供達に国語を学ばせるのか、というのを学びました。多くの人は語彙力をつけさせることや文章を書けるようになることというイメージだと思います。ゼミや今大会で学ぶまでは私もその一人でした。しかし、文芸研を通して国語という教科は、子供達に物語や説明文を通して考えること、自分ごとに捉えることを学ばせていると感じました。文芸研という「典型化」です。この典型化こそが国語を学ばせる意義だと今大会を通して学びました。物語から子供達自身が感じ取ることが大事なのだと学びました。登場人物はどんな感情を持っていたのか、描写からどんな解釈ができるか、物語一つ一つのことを第三者の目線（外の目）から見て考えることで、自分ごとに捉えられるのだと思っていました。このようなことはAIにはできないと思っています。AIは何かを提示するだけで子供達の深い学びを提供することはできないからです。そこで教師がAIを越えることができるのだと思いました。私は詩と小6の分科会に参加しました。授業のレポートを見て、子供達が生き生きと発言している姿が想像でき

ました。分科会では本職の先生たちと会話を交わす中で、授業作る際どこに目を向けているのかを間近で見ることでも勉強になりました。特に詩の分科会はそれが顕著に表れていました。詩は文が短い分解釈を広げなければならぬ。そこで一つ一つの表現などを汲み取っていくことが授業を作る上で必要なのだと勉強させてもらいました。国語科という教科は授業を作るのが難しいと思います。しかし、子供達の豊かな考えや解釈を自然に結びつけてやるが必要だと思います。なかなか難しいことですが頑張つて経験を積み良い授業ができるように、今回の学びを活かしていきたいと思いました。とても貴重な経験ができてよかったです。

## 「学び続けることの大切さ実感して」

大東文化大学三年 近藤亜岐

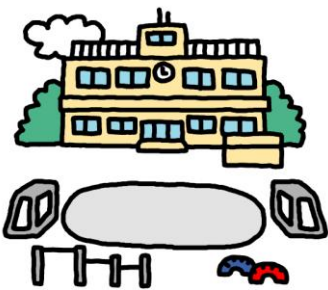
今回初めて文芸研究会に参加させていただき、まず自主的にこのような機会を設け、文学作品の研究や討論、さらには学校教育の実態について学び続ける姿勢に感銘を受けました。二日間という短い時間でしたが、研究し学び続けることの大切さを実感するとともに、それは教育現場に限らず広く社会生活においても重要であると感じ、今後の生活の中で意識していきたいと思いました。

一日目は特に『やまなし』の動画による公開授業とシンポジウムが印象に残っています。私は『やまなし』を当日初めて読んだのですが、一度読んだだけでは理解できず、公開授業の様子や資料を通して少しずつ分かっていったように思います。宮沢賢治の世界観を描いた作品であり、大学生の私でも理解に時間がかかるものを小学生にどのように教えるのか、どんな言葉を用い、どのように工夫するのか、考えれば考えるほど難しい課題だと感じました。しかし動画を視聴し、子どもたちに作品の魅力を伝えるための多様な工夫や、それをめぐる討論の様子を見ることで、普段なら気づけない視点や考え方を学ぶことができました。

二日目の午前の部では作文の分科会、午後の部では『夏の葬列』の分科会に参加しました。作文の分科会では、作文指導はただ書かせるだけでなく、子どもが「書きたい」「伝えたい」と思えるようにすることが大切であると学びました。技術的な面や表現力は書き続けることで自然と身についていくため、まずは自由に書く意欲を育むことが重要であると気づきました。また、作文を通して子どもの実態を把握できるだけでなく、教室で共有することで学級づくりにもつながると学びました。私自身、小中学生の頃に先生が紹介した友人の作文を参考にして書いた経験があり、そのことを振り返るとは、子どもが作文を苦手とするのは「正解」を気にしすぎることが一因ではないかと考えられました。だからこそ優れた作文を紹介し共有する

ことで、子どもたちが徐々に書き方を学び、楽しんで取り組めるようになるのではないかと思います、自分が教員になった時にはぜひ作文指導に力を入れたいと思いました。午後の『夏の葬列』の分科会では、平和教材をどのように扱うかを考える有意義な時間となりました。大学のゼミで事前に教材研究を行っていたのですが、新たな視点を得ると同時に、自分の考えを深めることができました。特に、時代の移り変わりとともに子どもたちの戦争への理解が薄れている現状や、教員自身の知識不足も課題であることを再認識しました。私自身、小中学生の頃は「戦争はひどいもの」という抽象的な理解しか持たず、誤解もしていたと振り返ることができました。そのため、今後教員として平和教材を扱う際には、入念な教材研究を行い、小学校での学習を中学校へ繋げていけるよう意識した授業を展開していきたいと思いました。

この二日間を通して、改めて子どもや時代、環境に応じた柔軟に対応する力、複数の視点から考える姿勢、そして学び続けることの重要性を実感しました。貴重な学びの機会をいただき、今後の大学での学習や将来の教育実践に生かしていきたいと思いました。二日間本当にありがとうございました。



千葉大会の思い出♡





## 事務局長

### 事務局長になって

山口文芸研山口東サークル 酒井大輔

本音を言えば、私はもつと文芸研の実践を学びたかったんです。

全国の先生方の授業、教材研究の深さ、子どもたちの声——その一つひとつに触れるたび、「こんな授業をしてみたい」「目の前の子にも教えてあげたい」という気持ちになり、次の日が楽しみになりました。

でも事務局の仕事をしていると、どうしても会の運営や段取り、連絡ごとに追われます。ましてや、事務局長。これまで長年務めてこられた山中尊生前事務局長の姿を見て、「これ…自分に務まるかなあ」と内心ひるんでしまいました。

でも、同時に思ったのです。

こんなに熱心に子どもたちの成長を願い、実践を語り合える場は、そうそうありません。

文芸研の皆さん方が安心して学び合えること、それを誰かが支える必要があるなら、自分もやってみよう。

そう決めたのは、ひとえに尊生先生があまりにも長く事務局長をしていて、ちょっと気の毒だったから、ではなく、自分がこの会に出会えてよかったと思っ

ているからです。

「小学校のうちから、人間ってどんなものなのか、世の中ってどんな仕組みや、どんな考えで動いているのかなどを知ることができて、考えられるようになっていたら、その子のその後の人生がもっと豊かになるんじゃないかな。」私が小学校教諭になった理由の一つです。文芸研で学べば、その「人間とは何か」という人間認識の力を子どもたちに育てることができそうです。私がやりたいと思っていたことが文芸研で学べばできます。まだまだ学びたいし、試してみたいことばかりです。

：そんな思いもあって（あと、5年生を担任している方が全国的に少なかったというのもあって）レポーターも引き受けてみました。事務局長をしながらのレポーターは、想像以上に：きつかったです。：。前事務局長のすごさを改めて感じました。しかし久しぶりに本気で学べました。レポーターをすると新たにわかることも多く、楽しい時間でもありました。事務局長をしながらでも学べることも分かりました。

この会が、誰もが安心して悩み、挑戦し、語り合える場であり続けられるよう、私なりにできることを積み重ねていきたいと思います。

また今、文芸研が大きく変わろうとしています。その一つが以前より話題に上がっている全国大会についてです。今度のサークル代表者会議では、文芸研がより良い方向に変化発展していけるよう、みなさんの

お力をお貸しください。

どうぞよろしくお願いいたします。

## サークル近況報告

### 詩の教室、始めました!!

広島文芸研広島サークル 砂島祐子

「そうそう、あのね。孫（2年生）の参観日に行ったのよねー。算数だったんだけど、テレビ画面で、足すとか引くとかの場面かなあ、ずっと映像が流れて。へえ・・・とは思ったけど、子どもたち、なんか分かっていない様子でねえ・・・」

最近、友だちと会食をした時の話です。

「それは、テレビじゃなく、電子黒板かなあ。デジタル教科書というのがある・・・。」

などと、私もこの一年半、現場を離れているので、その程度の会話に終始してしまいました。

電子黒板にデジタル教科書、タブレット。パソコンでの事務処理・・・

手書きが激減しているなあと感じます。校内研修もそういった電子機器の使い方の講習が多くなり、教材研究の時間が減っているのではと危惧しています。

やはり、授業研究を仲間とともに楽しんで欲しい。「分かる」「おもしろい」授業の流れをみんなで考え、

実践していくおもしろさを体験してほしいと、広島サークルでは、四月、九月、一月の三回、「先生の国語教室」を開いています。（実施月に変更することもあります）サークル員が減っているのですが、退職した田中三郎さんにも参加してもらい、各学年一人ずつ担当で頑張っています。

そんな中、「詩の教室をやろう！」

と、佐々木智治さんの提案で「詩の教室」を始めることにしました。（この時、佐々木さんが、詩の教室を始める意味や意義を熱く語ってくださいただのですが、話の内容は既に忘却の彼方になっております。）

現役の人は忙しいだろうと、佐々木さんと私が引き受けることになりました。（佐々木さんは半現役ですが）

担当は、佐々木さんが上学年で、私が下学年です。



十数人の参加があり、グループ分けをして、時々班討議をしてもらいました。班討議では、色々な見方や体験を通じた話なども出て、楽しく学習することができました。

「なるほど、そう読むと深いしおもしろい」との参加者の声がサークルの「やってよかった」に。

## 2回目（2025・6・8）

（講座前半）「雨のうた」（つるみまさお）二年生  
（講座後半）「かぼちやのつるが」（原田直友）四年生

やっぱり、教科書に載っている詩について学びたいだろうとこの二つに決めましたが、一般参加が三人でした。

学校行事の運動会や土曜参観・日曜参観等を避けたつもりでしたが、参加者自身の都合もあり、なかなか人集めは厳しいと感じたところでした。

しかし、少数で行う利点もあって、和気あいあいと遠慮なく発言、時には話が脱線、それでもって「文芸研での学習は考えさせられる、楽しい」となるところがこの学習会の良いところだと思います。

## 3回目

2025年12月6日に3回目を行いました。

## 1回目（2024・1・24）

（講座前半）「かたつむり」（リユー・ユイ）

（講座後半）「村の人口」（原田直友）

「いるか」（谷川俊太郎）

一月の教科書教材の詩を中心に進めました。

前半、1年「かたつむりのゆめ」（くどうなおこ）ほか・2年「ねこのこ」（おおくぼていこ）ほか・3年「なみ」（内田鱗太郎）ほか、これらの詩に関連する教科書に載っていない詩。

後半、5年「するめ」（まど・みちお）「蛇」（ジュールルナル）「土」（三好達治）ほか、これらの詩に関連する教科書に載っていない詩。

今年は早くからインフルエンザが大流行していて、学校では学級閉鎖も多くでていると聞いていたので、参加者は少ないだろうと思っていた。しかし、一般参加者13人、サークル員3人の計16人で行うことができました。

最初は、参加者からの声が遠慮がちだったのですが、だんだん盛り上がってきて、最後はワイワイと賑やかで楽しい学習会となりました。

参加者の感想をいくつか紹介します。

○詩の解釈が私にとっては難しく、いつものように授業をすればよいのか、あまり深く考えることもなく詩づくりにはしてしまいます。

今回学ばせていただいて、一行一行を読んでいく楽しさ、全体から読んでいく楽しさ、題と内容との比較する楽しさ・・・たくさん学べて、とても楽しかったです。

まだまだ学びたいです。ありがとうございました。

○今日はありがとうございました。詩を深く読むとおもしろいなあ・・・と思いました。きっと子どもたちの発想の方がおもしろいはず。

みなでしっかりと語ることができると詩の授業をしていきたいと思いました。

言葉はおもしろいですね。

○詩を授業するのが、国語が万年苦手だった私には、お手上げ状態で、このような会はとてもありがたいです。大人が大勢で言葉を楽しめてとても楽しかったです。

物語文の気持ちや典型化のあたりを学べたら嬉しいです。

○お二人の講座で、今日の勉強で、詩の楽しみ方をより味わうことができて、子どもたちともう少し長い時間いっしょに楽しめそうです。

子どもは、読んでも「わからん」という言葉で終わり、ついつい説明してしまいますが、類比・対比、たとえ、典型化をもちいるといい質問ができるかなと思います。ありがとうございました。

○本日はありがとうございました。学校で今の子ども達と一緒に学びたいな、クラスの子とも達はどう思う（考える）んだろうなと思いつきながら話を聞いていました。

物語の授業は、私も含め、子ども達一人ひとりで感じ方が違うので、どうまとめていいのか、よく悩みます。教えて頂きたいです。

○物語文の読み取り方で、授業のヒントがもらえると嬉しいなと思います。

ただ今回の“詩”は、あまり力を入れず、何となく読ませていることが多かったので、講義を受けてとても面白くて、本当に授業でやってみて、子どもたちの反応を見たりくなりました。ありがとうございました。

毎回、参加者が何年生担当の先生なのやら、何人の参加者があるのやら、皆目見当もつかないのですが、今回の参加者の要望にも応えて臨機応変にやっけていくつもりです。

最後に、「国語教室」や「詩の教室」などの学習会の参加者の繋がりで、もっと参加者が増えたらいいなあ、サークル員が増えたらいいなあと思う昨今です。



## 大阪大会に向けて

### オンラインセミナーに参加して

大阪府枚方市 東野将貴

上西先生のお話を聞いて、改めて国語の授業で子ども達に「言葉って面白い!」「言葉を使うって楽しい!」「言葉を使いたい!」と思ってもらいたいなと感じました。昨今の指導書では、成果物を作ることを目標として、題材の深みや面白みをあまり追求しないようなものがよく見られます。しかし、やはりまずは上述のような内発的な動機が大切だと思います。その内発的な動機が土台となり、発展的な内容として「みんなにポスターを作って、この作品の面白さを感じてほしい!」「この本の面白さを紹介するために帯を書きたい。」というような活動に繋がるのではないのでしょうか。

少し話は変わりますが、日本のGDPは世界2位から中国・インドに抜かれて4位となりました。その焦りから、「成果を出さなければ価値が無い。」というような結果主義の政治の方向性が、題材に深く取り組みまずに成果物を作るという授業構成を通して、この教育行界にも透けて見えるような気がします。しかし、先ほども書いたような土台を大切にしなければ結果など付いて来ず、衰退するばかりでは無いでしょう。

か。

また、上西先生のお話を聞いて感じたのは、クラスみんなで一つの題材についてあれやこれやと考える楽しさです。枚方では、教育委員会から個別最適化がこれからのスタンダードかのように言われ、個別最適化こそが、最高の授業手段だと言わんばかりの言われようです。しかし、集団で一つの物事を様々な角度の価値観や目線から発言し合うことでの、考えの深まりや楽しさや気づきの魅力の方が、個別最適化よりも低いとは思えないと改めて感じました。

教師も毎日の忙しさで、授業を楽しみ気持ちを忘れがちになります。しかし、今日の上西先生のお話を聞き、教師自信がまずは「言葉」を楽しみ、内発的な動機を作ってそれを土台にした上で子ども達に授業をしたいものだなと思いました。

山中尊生さん中心に、枚方サークルのメンバーが講師として校内研にお邪魔しました！

## 宇治市立小倉小学校 校内研究会 8月19日

(参加者の声より)

物語教材のとらえ方、教材分析、授業の進め方等について、今まで経験した事のない内容の研修、目から

ウロコ状態で大変になる研修でした。今までしてきた物語文の分析は、全くといっていいほど子どものためになつていなかったと痛感しました。

今日の内容は、国語に関する内容でしたが、根底に流れるいかに児童を育てていくか、どのような児童を目指して日々の教育活動を進めていくかの点では多くの共通点がありました。退職してクラスを持つことはなくなりましたが、教育の根底にある部分は、今日の研修を活かして教育に携わっていききたいと思います。

自分自身物語文に苦手意識があったので、今回の研修での内容で物語文についての考えを深める機会になりました。まず全体で物語のイロハを学ぶことで、教材分析がとてもスムーズに頭に入ってきたのでとても良かったです。

教材分析では、『海の命』を取り扱い、解釈が難しい物語文だと思っていたので、丁寧に読み取り方を教えていただきました。

一つ一つの言葉や、言葉の使い方、語呂や誰が誰に對して思っていることかなど、子どもたちに順序立てて考えていかせる大切さを学びました。

読み進め方をとっても分かりやすく教えていただき、今後どんな生かしていきたいと思えます。

貴重な研修会を開いていただき、ありがとうございます。

今日は、貴重なお話をありがとうございました。

文芸研には二度参加したことがあり、国語だけでなく他教科にも活かせる考え方があり、大変勉強になりました。

国語の物語文の読み方を今日教えてもらい、視点人物をしつかり考え、発問を考える事が教師もブレることなく考えていけると思いました。モチモチの木の教材分析も気付かなかった視点も気付くことができた、〈条件〉について学ぶことができ教材研究の幅が広がりました。

二学期が始まる直前、たくさんの刺激をいただきました。教材研究をする時間がなかなかとれない中、グループ毎に分析ができたこと、授業の視点を持つことができたことが、ありがたかったです。

「問いかけると思考が動く」この言葉が心に残っています。ただ何でもかんでも問うのではなく、視点を明確にし、子ども達が物語で何を学ぶのかを私達が持つておかないといけないと思います。

授業の中では、それぞれがちがう考えを持ったり、見方が異なったりする中で最後は、自分がどう思ったか、自分が学んだことを自分の言葉で表現することができるようクラス経営を行い、学習したことが私達の生活と重なり、生きた言葉になっていくことを願います。

最後に、「学ぶ」のは子ども達だけでなく、私達大人も学びをとめず新しい刺激を受けて、周りに影響を与えていける学校になっていければと思います。

## 事務局通信

今年の冬は気温の変化が激しいとの予報が出ておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、来年の大阪大会に向けて、枚方サークルの山中尊生大会委員長の元、関西・四国ブロックの皆様を中心に、着々と準備が進んでいることと思います。今回の大阪大会は60回の記念大会ということもあり、新しい取り組みがたくさんあります！

①大会サポーター制度の導入

②全10回のプレオンラインセミナーの開催

③プレオンラインセミナーのアーカイブ視聴

④全国大会で特別分科会の開催

などなど、大会も楽しみですが、大会までの間も学びを深めることができる仕掛けをたくさん企画、実施されています。そんな全国大会のメインはやはり分科会です。冬の実践研では、各分科会の教材分析の検討を行います。レポーターの皆様も、全国の皆様も多くの学びの場となるよう、事務局として支えていきたいと思っています。そして、夏の全国大会につなげていけたらと思います。

また、サークル代表者会議では、どうすればこれか

らの文芸研がより発展していけるかなども各サークル代表の皆様と考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

☆文芸教育、授業シリーズ販売をよろしくお願いいたします。まずはサークルでの読み合わせや、各地の学習会での紹介などで、文芸教育や授業シリーズのよさをたくさんの方に伝えていきましょう。また、良い方法があれば全国で共有して、たくさんの方に届けていきましょう。12月に編集会議も行われました。どういふ特集、構成などにすればより多くの方の手に渡るのかなど考えていきました。各サークルのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

☆サークル会費納入のお願い。まだお済みでないサークルは実践研での納入、または振込での納入をお願いします。ご協力よろしくお願いします。

## 今後の予定

5月9日（土） 10日（日） 春の実践研（神戸）  
8月1日（土） 2日（日） 文芸研大阪大会

\*新しい年間計画ができましたら、年間計画をもとに様々なご準備をお願いします。

## 【事務局員の妄想日記】ある日の学級通信より

### 決戦の日曜日

児童会祭り「3の1万博」のボウリングパピリオンは、たくさんのお客さんをよぶ人気パピリオンでした。その二日後は、担任の出場するボウリング大会でした。ボウリング場のボール（ハウスボール）ではなく、マイボールを持参している人もいましたが、私はハウスボールです。実はマイボールも持っています。投げ方がどうもむずかしく、ほこりをかぶるマイボールです。

基本的に年に一度、このボウリング大会でしか投げないので、チャンスあって、試合一週間前に練習ができたことは、先週書いた通り。そのままのスコアが出せたら、優勝争いはできそうです。

しかし、試合前の投球練習のこと。えらんだボールがしっくり来ないで、右側に大きくそれる。続いて投げるも、さっきのボールは言うこと聞かず。急いでボールを替える。初めてプレーするボウリング場というのもあり、色々しっくり来ないまま、練習タイム終了。ストライクもスパアも一つも取れていない、不安をかかえたままのスタートとなりました。

それでも、試合となるとなぜか調子が上向きました。連続ストライクが始まり、その後スパアもほとんど取れました。ミスが一つ少なければ、大台の200まで

次の試合は、あまりストライクが出ず、スピアの取り損ねもあり、調子としては落ちました。それでも、142で踏みとどまりました。二位からの追い上げがありました。トータル332で、逃げ切れました。皆様の応援が力になりました(妄想)。ありがとうございました。

[illegible]

【やっぱり楽しい作文指導】

ちゅうじゅうとくちゅうあく?

いいなあ。家族みんなでねるってあったかいねえ。

15

た。真ん中のとくとう席、四年生になったら入れたらいいな。今は、お父さんのやさしさにあまえましよう。

【井上憲雄先生に続け！漢字童話】「1年生の漢字」

ぼくの夕子先生へ

ぼくのたんじんの先生はすごいんだ。一年二くみたんにんの花村夕子先生は、学校で一ばんすごい先生なんだ。

こくばんにかくチョークの文字が、とってもきれいだ。クラスの中で一ばんきれいに早く早川さんよりも、きれいにかけるんだ。ぼくもいつか夕子先生みたいに、正しくきれいにかけたいとおもってる。

夕子先生は音がくも、とくいなんだ。ピアノをひきながらうたをじょうずにうたえるんだ。おねがいしたら、さいきんのか手のきよくもれんしゅうして、ひいてくれるんだ。このまえなんて、三きよくおねがいしたら、それよりおいおい四きよくもひいてくれた。ひけるきよくは、百きよくよりおいなんだって。夕子先生、音がくかだね。本やさんで見たがくふは、千円よりたかかったよ。夕子先生、お金もちなんだね。十円玉がなんまいあったら、千円になるのかわからないけど、先生はお金もちだね。ひいてくれて一ばんうれしかったきよくは、ぼくが好きなアニメのきよく『青い月の空へ』でした。どうしてあんなにきれいにけんぱんの

上を、ゆびが右へ左へいったりきたりできるの。

夕子先生は、いっしょに虫とりもしてくれたね。バツはつかめないのに、なぜかカマキリはひょいっとつかまえられる。木にとまっているセミはとれないけど、草にとまるトンボをつかまえる名人。ぼくがやつのおもいでつかまえたトンボ五ひきを先生がにがしてしまつて、おれいに七ひきつかまえてくれたよね。トンボは先生につかまりたいみたい。大きな石をどかすと、ダンゴムシがうじゃうじゃいて、ぼくと先生は二人で大きなこえを出してうしろにころんだね。先生は、ぼくのおしりの土をはらっているときも、まだ目をおさらのようにまるくしていたね。先生は、虫がとくいなのか、にが手なのか、よくわからない人だ。でも、夕子先生とする虫とりが一ばんたのしい。

天氣がわるい日には、え本をよんできかせてくれるのがうれしいんだ。だから、ぼくは雨がふるのもすきなんだ。

夕子先生は、え本の人ぶつのなににでもなれるからすごい。ぼくが好きな夕子先生のよみきかせは、『貝がらにとじこめられた王さま』『六びきの小さな犬』『水でやいた玉子やき』だよ。じぶんでよむより、夕子先生がよまないのだめなんだ。なんかいでもよんでほしい。先生がはなしはじめると、その口にぼくの目はすいよせられる。え本のえがうごきだすんだ。ぼくは、え本に入ってしまうんだ。

夕子先生がすごいのは、ほかにもある。男子だから

とか、女子だからとかいわないところ。

「男子だから、力がつよいほうがカッコいい。足がはやくないといけない。」

「女子だから、ピアノがひけたほうがいい。なくてもしかたがない。」

そんなことはいわない。だれだってなきたいときもあるし、ピアノがひけたらいいなっておもってる。力がつよい子もいるし、そうじゃない子もいる。ぼくもそう。足もおそい。でも、夕子先生は、「男子だから。」っていわないから、うれしい。

だから、花村夕子先生はぼくにとって日本一の先生です。金メダルをあげたいです。

それなのに、夕子先生はそうじゃないっていう。「夕子先生よりもすごい先生がいるんだよ。林田先生っていう先生でね。」って、ぼくの日記のようにいつもの赤いペンで先生はかいていたね。

たしかに、夕子先生のせんぱいの林田先生は、一年生のかん字をぜんぶつかってものがたりをかいだ先生なのかもしれないけど、ぼくはすごいとおもわない。ぼくは、夕子先生のほうがすごいとおもう。それに、

夕子先生はいい日記がどんなものか、おしえてくれたよね。かん字をつかわないよりはよかったほうがいいけど、みじかいよりはながいほうがいいかもしれないけど、それよりも、これだよね。「じぶんのところに耳をむけて、じぶんとおしゃべりしながらかく日記がすてきだね。」ってほめてくれたよね。ぼくはあのと

き、山のてっぺんからおもいきり「やったー！」ってさけびたかったよ。森の中のとれたちがびっくりしてとび立つくらいさけびたかったよ。

だからさ、一年生のかん字をぜんぶつかうためにおはなしをかくなんて、おかしいよ。夕子先生がくこのじゅぎょうでいていたみたいに、あい手につたえたいことがあるからくんだよ。だからぼくもいまかいているんだよ。先生にかきなさいなんていわれなかったって、ぼくはくんだから。いま、先生にいいことがあるからかいているんだから。だから、はじめて日記ちょうハページもかいているんだ。もうすぐ九ページいきそうだよ。ぼくの目は、火でめらめらだよ。

夕子先生、赤ちゃんをうむためにお休みするんだってね。おなかが大きくなってきたもんね。じてん車じゃあぶないから、車で学校にくるようになったもんね。げん気な赤ちゃんをうんでほしいけど、夕子先生とはあえなくなっちゃうっていうことなのかな。

本とうの本とうに、さいごです。これが一年二くみでぼくがかくさいこの日記です。でも、いつかまた、ぼくの日記をよんでください。また赤ペンでぼくのかく日記にへんじをかいてください。

それから、ぼくがそつぎょうするまでに、かならず竹町小学校にもどってきてください。そして、夕子先

生みたいなまっ白な赤ちゃんを、一ばんにぼくにだっこさせてください。

ぼくはきいたことがあるよ。赤い糸っていうすごい糸があるって。もしも、その赤い糸がぼくにもあったら…。ぼくは、ぼくは、夕子先生とけっこんしたいです。

(完)